

第33回 日本視機能看護学会学術総会

2017(平成29)年8月26日(土)・27日(日)の2日間、栃木県総合文化センターにおいて、原眼科病院主催の学術総会を開催しました。テーマは「飛び出せ好奇心一見たい、聞きたい、学びたい」で、参加人数は618名。北海道から沖縄まで、全国各地の看護師や眼科検査員、薬剤師の方が参加してくださいました。

特別講演は世界で初めて人眼にiPS細胞から作成した組織の移植手術を執刀された、神戸市立医療センター中央市民病院眼科部長、栗本康夫先生による「iPS細胞が切り拓く網膜の再生医療」の講演がありました。

また、一般の方にも学会に参加して頂くために、獨協医科大学眼科教授、妹尾正先生から「生活習慣病による眼障害」について講演していただき、100名近くの一般の方に参加して頂きました。

当院の職員3名も発表しました。手術室主任の山口幸人はランチョンセミナーで「手術に関する情報公開について」というタイトルで、当院で1975年から行っているテレビ中継による手術公開について話をしました。実際の手術中の様子をVTRで流し、術者と家族の会話や、院長が職員を注意している会話もそのまま流し、会場内は驚きに包まれました。

看護師の小西伶奈は「退院パンフレットの見直しー緑内障手術後の退院パンフレット作成ー」について、緑内障の手術を受けた方にアンケートを取り、“新しく作成したパンフレットをどの程度理解しているか、不安に思ったことはどんなことか？”についてまとめたものを発表しました。アンケートの対象者の方々にはご協力頂きましてありがとうございました。検査の長谷川可明は「眼圧とオートレフの測定精度」について、11名の検査員が1人の被験者の眼圧とオートレフを測定し、検者の技術を要さない自動の機械であっても、経験年数に関わらず、検査値には多少の変化があることを報告しました。

一般口演も全国の眼科施設から51題の発表がありました。当院同様、毎日の業務の中で問題になっていることや、いろいろな工夫をしていることが分かり、共感できることも多く、また学ぶことの多い学会になりました。

病院の新築、改築工事の計画と同時進行で、2年以上前から院長、総務部長、事務部長と共に学会の計画を立て、無事に開催することができました。大きなトラブルもなく、好意的なご意見も頂き、参加された方々に満足して頂いたのではないかと考えております。皆様にご不便をおかけした病院の新改築の工事も、大きなイベントであった学会も終了しました。これからも患者さんの声に耳を傾け、より良い眼科病院を目指したいと思っております。



左から、座長の川島 秀俊先生、栗本 康夫先生、院長 原 岳



原眼科 事務職員、お揃いのTシャツで



会場内の様子